

2019年9月20日の薬事委員会で以下の薬剤について決定いたしました。他の事柄についてもあわせてご報告いたします。

① 新規採用医薬品

ゾレア皮下注 150mg シリンジ (皮膚科)

薬効： 慢性蕁麻疹治療剤、気管支喘息治療剤

申請理由： ゾレア皮下注用 150mg は凍結乾燥製剤で溶解操作や医療器具が必要であった。今回のプレフィールドシリンジ製剤は、利便性、安全性の向上が期待できる。

採用中止薬剤： ゾレア皮下注用 150mg

ディスコビスク 1.0 眼粘弾剤 (アイセンター)

薬効： 眼科手術補助剤

申請理由： 現在、オペリド HV とシェルガンを2剤同時に使用するソフトジェル法を実施している。ディスコビスクは1剤でソフトジェル法が可能な製剤となっている。コスト面でもメリットがあり、従来通りの角膜内皮保護も担保される。

採用中止薬剤： なし

ユルトミリス点滴静注 300mg (血液疾患センター)

薬効： 抗補体 (C5) モノクローナル抗体製剤

申請理由： ソリリスを改良し、PK トラフ回数が少なくなるように PK/PD プロファイルが改良されていることから、8週間隔での投与が可能となった長時間作用型抗補体 (C5) 抗体である。

採用中止薬剤： ソリリス

ヘルニコア椎間板注用 1.25 単位 (整形外科) 【外来限定】

薬効： 腰椎椎間板ヘルニア治療剤

申請理由： 国内初となる椎間板内に直接注射する治療剤であり、全身麻酔の必要もなく、手術療法と比較して患者の方々への身体的侵襲が小さいという特徴を有している。

採用中止薬剤： なし

サラゾピリン坐剤 500mg (消化器内科) 【院外限定】

薬効： 潰瘍性大腸炎治療剤

申請理由： 坐剤は、直腸に炎症がみられる軽症から中等症の潰瘍性大腸炎の標準的な局所療法とされている。直腸炎型に対する寛解導入療法および寛解維持療法の重要な薬剤に位置付け。

採用中止薬剤： なし

② 規格変更

アリナミン F50 注 → アリナミン F100 注 (総合内科)

③ 使用成績調査

<マイクロカテーテルV>

1. 調査区分：朝日インテック(株)製マイクロカテーテルの使用成績調査
2. 販売名：マイクロカテーテルV (製品名：ASAHI Tellus [テルス])
3. 調査目的：Interventional Radiology に於ける有用性及び安全性の臨床的評価蓄積
4. 調査期間：契約締結日より 2020 年 6 月 30 日まで
5. 予定症例数：40 例 (1 症例=1 調査票)
6. 調査責任医師：画像診断部 部長 石井 清午 先生
調査分担医師：画像診断部 医長 澤 宗久 先生

④ 近畿厚生局より、保険調剤薬局より指摘された不適切な処方例

<みどり薬局からの情報>

- ・PPI (タケキャブ、ネキシウム、ランソプラゾール OD など)
56 日分を超えての処方。継続での服用も含む。
- ・添付文書上、1 日 1 回復用の薬剤の 2 回以上服用 (アムロジピン OD、アジルバ、アダラート CR など)
- ・ビタミン剤 (ビタノイリン、アリナミン F、シナール、メチコバルなど) 月余にわたって使用すべきでない。
- ・ガスモチン (モサプリド) の長期投与、漠然と投与しない。
- ・漢方薬の食後投与
- ・エパデール S の食後投与
- ・塗り薬 塗布部位を具体的に (患部に塗布は X)
- ・湿布薬 貼付部位を具体的に (全身に貼付は X)